

新成人「密」避け門出祝う

十一日の「成人の日」を前に、尾張、知多地方の各地で十日、成人式が開かれた。新型コロナウイルスの感染が拡大する中、各自治体は対策を徹底して式を実施。スーツや晴れ着に身を包んだ新成人たちは、旧友たちとの再会を喜び、未来への一歩を踏み出した。

(牧野良実、高岡涼子、高田みのり)

入れ替え制や隣席空け 稲沢、あま

○：稲沢市の成人式は、

同市正明寺三の名古屋文理大文化フォーラム（市民会館）で開かれ、約千百人が出席した。密を避けるため、出身中学校ごとに二部入れ替え制で実施。入場時に手指消毒と検温をしたほか、フェースシールドを着けて参加する新成人もいた。



加藤市長に誓いの言葉を述べる石原さん申と川村さん申。稲沢市の名古屋文理大文化フォーラムで

約七百人が出席したあま市の成人式は、例年通り二カ所で開催。保護者席は設けず、一席ずつ空けて座った。実行委員を務めた名城大二年の後藤優磨さん（三〇）は「中止にならないか不安だったが、開催できて良かった。これからも地元を大切にしたい」と抱負を語った。

鳴子踊り「笑」登場 新成人一緒に手拍子

犬山

○：犬山市の「二十歳の集い」は同市羽黒の市民文化会館であり、対象の69・



座席を1席ずつ空けて式に臨む新成人たち。あま市美和文化会館で



新成人の記念撮影。着姿で記念撮影する新成人たち。犬山市民文化会館で

2%となる五百九十一人の新成人が参加した。新型コロナウイルス感染防止のため、中学校区ごとに二部に分けて開催した。

市内の鳴子踊りチーム「笑」が登場し、活気あふれる踊りで幕開け。感染防止対策として大声で掛け声を出せない新成人たちも、手拍子で会場を盛り上げた。

赤レンガ建物など 休憩所として開放

半田

○：会場での交流が制限された半田市では、市民有志でつくる「半田まちなか成人式応援隊」が市内各施設を写真撮影や休憩スポットとして開放。そのうちの



半田赤レンガ建物の前で記念撮影に臨む新成人たち。半田市榎下町で

校のころを振り返るコーナーでは、懐かしい写真に思わず笑いが漏れる場面もあった。

新成人で作る実行委員の委員長を務めた、岩村恵吾さん（三〇）が代表としてあいさつ。「これからの未来を担っていく自分たちに何ができるのか、何をしたいのかをこの機会に考えてほしい」と呼び掛けた。

収まった。

会場には半田中の恩師らが式典終了に合わせて待機。新成人らが卒業前、成人の日の自分に宛てて書いていたという手紙を一人一人へ手渡した。

プログラマー榎原正浩さん（三〇）「半田中出身」は「『五年後はつまぐいって

ますか？』など、問いかけが書いてあった」とほほ笑んだ。「ものづくりが好きなので、作曲などしながら楽しく過ごしていきたい」と話していた。